



解き放つ心 風薫るチェア

ミラノサローネ国際家具見本市 ①

先月に開かれたミラノサローネ国際家具見本市では自然を謳歌するアウトドア家具が際立っていた。長く続いた新型コロナウィルス禍や戦争など不穏な世相にあらがうように、未来に向けて爽やかな色彩をまとい、丁寧な手仕事で仕上げられた家具たちは、外に出て自然の恵みを共にする豊かさを表現しているようだ。

ミラノサローネでは、イタリアの家具ブランド、モルテリ二社が初のアウトドアコレクションを発表した。同社のクリエイティブディレクター、ヴィンセント・ヴァン・ドゥイセン氏は「家具を建築的要素の一部と捉え、柔らかさや幸福感、有機的な遊び心というアイデアを追求した」と語る。

核となる「ランドマーク・コレクション」は、イタリアの著名デザイナー、ルカ・メダ氏が1994年にデザインした名作ソファ「パリンフラスカ」の復刻版でイタリアの優れた職人技が光る逸品だ。チーク無垢材でできた帯状を編み込んだ背面は、伝統的なバスケットからヒントを得た。周辺環境との色彩調和にも気を配り、アースブラウン、オリブグリーンなど温かみ

大空と緑に包まれる至福

のある自然界の色彩を試みた。「丁寧な職人技、洗練されたディテール、そして偉大な建築家やデザイナーの教えを受け継ぎ、時代を超えた美しさを表現したかった」(ドゥイセン氏)

モルテリ二社のナチュラルな作風とは異なるが、カラフルで軽快なメタル製家具も来場者を虜にした。イタリア家具業界をけん引する樹脂製家具メーカーのカルテル社は、昨夏発表したアウトドアコレクション「ハイ・レイ」をさらに拡充した。デザインはイタリアのデザインユニット、ルドヴィカ・ロベルト・パロンバ夫妻が担った。

同社の中で重要な素材の一つである金属。繊細なメタルワイヤで構成した線画のようなフォルムに魅了される。陽光の光のもとでの開放感あふれる日常を願うデザインした。美しい楕円のような背面が清々さと躍動感を体現する(パロンバ夫妻)



カジュアルなデザインを得意とするイタリアのマジス社は、次世代に向けてシンプル
ミラノ市内に新社屋を開設するとうとうトピックスに来場者が沸いた。展示会場は古い工場の跡地で4千平方メートルに及ぶ樹木に覆われた敷地。展示会後は新社屋建設がスタートする予定だ。
「緑の中でアウトドア家具を人々と共有し、発想と幸福の源である緑との本質的なつながりを維持したい」とレンティ氏。今年25年に渡り協業するインテリゲンチアデザイナーのフランチェスコ・ロタ氏との記念の年。また、20周年を迎えたブランドを代表する長椅子「ウエーブ」は、新素材を発表し、比類なき色彩とユニークな質感が更なる進化を遂げていた。「糸やロープへの興味は尽きないし、切れ端ももったいない」という理念からリサイクルを提唱している。
今年リサイクル木材にも挑戦。千年の時を経た川底に眠る木材をスキーやスノーボードを生産する技術を用いて薄くて軽いテーブルに仕上げた。ムラーノガラスや陶磁器などの再生も斬新な製品を生む。レンティ氏は「23年を極

めて重要な年と位置づける。パンデミックを乗り越えた今、未来に向けて新しいクリエイティブな衝動の出发点」と明言した。
もう一つは、ファッション界の重鎮、ジョルジオ・アルマーニ氏がミラノ・デザインウィーク2023の開催に合わせて「アルマーニ・カーザ」初となるアウトドアコレクションをお披露目した。
会場は、17世紀に建てられた歴史的な建造物であるアルマーニ本社の緑あふれる中庭。全ての製品はチーク材で作られ、固くて耐久性に優れている。チェック模様のような彫刻も全ての製品に施した。ソファやクッションのジャカード生地は屋外仕様で撥水加工を施した特殊生地を使用。フットレスト付きソファとアームチェアの「コレレンス」、サンラウンジャの「チェイモシー」などを展示。固いチーク材と柔らかく丸みを帯びたクッションとのコントラストが絶妙だ。
「私の仕事は素材の選択と熟練の手仕事の技によってもたらされるバランスを絶えず追求めること。アウトドア家具を極上の素材で製作し、最高の場所で披露したのは、暮らした豊かさへの希求からだ」とアルマーニ氏は語った。
コロナ禍の苦境を乗り越えたイタリア家具業界は、未来に向けて本格的に稼働し始めている。サステナブルな取り組みを踏まえて、家ごもりが長く続いた消費者に太陽の光のもと開放感あふれる日常を願い、アウトドア家具をたたくえているようだ。
(ホームファッショニングコーディネーター 堀和子)